

## 第2回ワーキンググループ

議事録執筆者：池田真子

補記：文化の家 山崎沙知

■日時：2013年5月16日(木)19:00～ 風のホール

■参加者：

〔ワーキンググループ〕

青山恵、岩瀬信廣、梅村智子、梅村真季、大島令子、加藤裕美、川本瑠依、黒柳栄、近藤均、坂下恵子、島田善規、都築徳紀、橋寛憲、林剣士郎、広中省子、池田真子

〔文化の家のスタッフ〕

川上實館長、加藤登美子事務局長、靱山勝人、遠藤健一、生田創、佐藤雄亮、山田美代子、山崎沙知

■ワークショップの運営について(司会：青山恵)

○ワーキンググループとワークショップの関係性

アイデンカフェの位置づけの説明

ワーキンググループ＝文化の家を市民にとってもっと身近にするためにどうしたらいいか。

マスタープランの見直し、舞台機構の改修計画についても含めて、  
ワークショップを経て話し合う場。

ワークショップ＝色々な意見をもらうところ(21日)

アイデンカフェ＝市民がアイデアを出し合ってそれを実際に実現する。企画を持ち寄る。

(この3つが同時進行していく。)

○マスタープラン＝基本計画。たとえトップが変わったとしても、文化政策が変わらないようにという理念を定めている。

マスタープランを知らないまま色々な意見が出てきて、結局意見が通らなかったという話になるのは残念なので、是非みんなに知っていただきたい。

マスタープランに載っていることを、もっともっと市民に広めるためにはどうしたらいいのか。

・これまで文化の家はマスタープランに定められたことをきっちりと進めてきた。

→市民に立派な福祉、文化を提供してきた。

とりたてて特定の人を対象としたプログラムを提供していないからといって、「福祉に関与していない」という認識をもつことは間違っているのではないか。

→では次のステップをどのように踏み出すか。

## ○市民優先枠

現状は文化の家の施設がなかなか予約できない。抽選で当たらない。

ワーキンググループの最終的な目的は「市民優先枠をどうするか」という答えを1年間かけて出すことではないのか。

→文化の家が抱える問題は市民優先制度のみではないので、それも含めた色々な事について話すなかで考えていきたい。

## ■ワークショップ(5/21)の課題

### ・時間の配分

第1部：cobaさんのトーク(40分)、第2部：しゃべり場(話し合い)(約60分)

・「文化の家に対する皆の夢」を語り合う。

・「長久手」というキーワードを出さないと意味がないのではないか。「夢」といっても「長久手」いう範疇で語り合った方がいいのではないか。

・これはあくまでもイベントと捉えて、文化の家を市民に知ってもらうだけで精一杯ではないか。

・しゃべると言う言葉には二つの意味がある。一つ目は楽しいことをしよう。交流しよう。

二つ目は話し合って何かを決めていこう。第1回はどちらに重きを置くのか。

2回目、3回目はどういうふうに進めていくのか。今日は1回目だけの話ではなくて1年後の到達点を決めて、そこに向けてどのように進めていくのか話し合うべきではないか。

・「夢を語ろう」=文化の家をどんなふうに使いたいのか、文化の家に対して思うことを書いてもらう。

・「どういうステージスタイルにするか」=参加者全員にステージに乗ってもらう。

・このチラシを見るとcobaさんの演奏を聴けると思って参加される方もいるのではないか。

・休憩中に参加者に「文化の家で実現したいあなたの夢」をカードに記入してもらい、OHCで投影して話し合う。

・第2部司会は林、梅村(真)、リニモ浴線合同大学祭実行委員会からも応援を呼ぶ。

・来られる人は17:30に森のホールに集合しイス並べなどの準備をする。

## ■次回のワーキンググループ：6月20日(木)19:00~